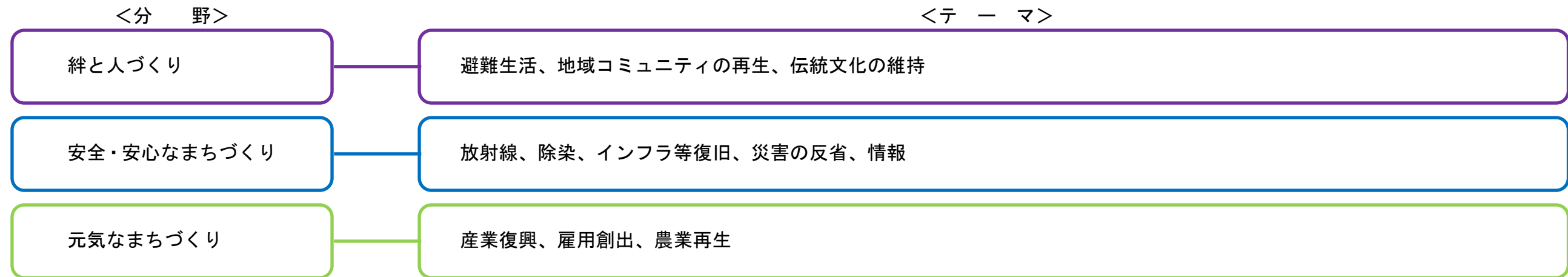
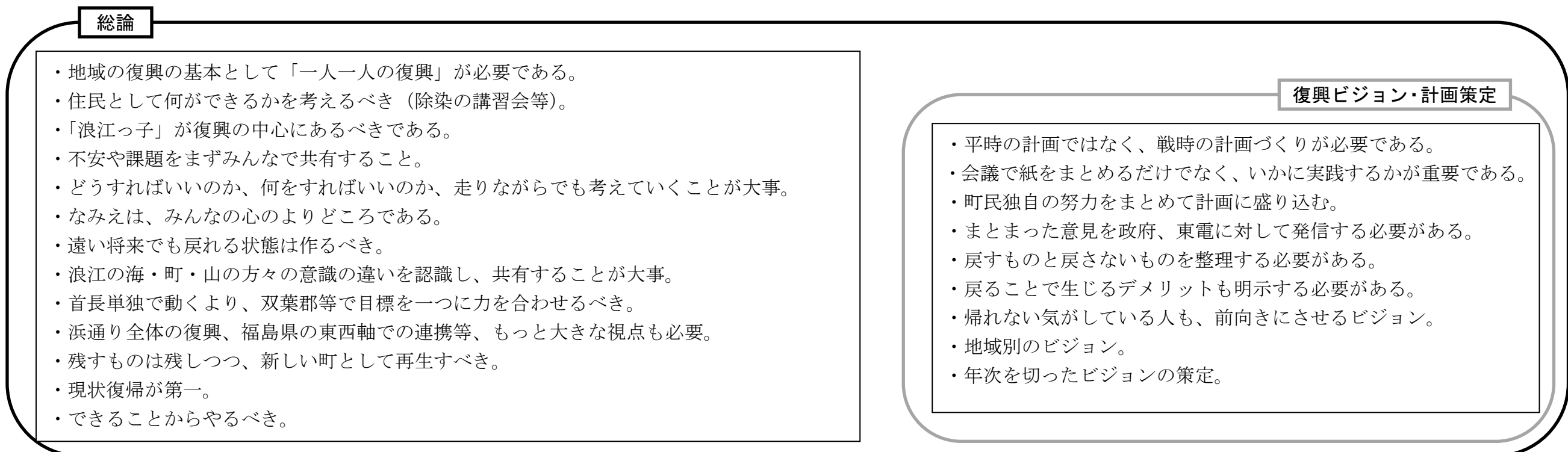


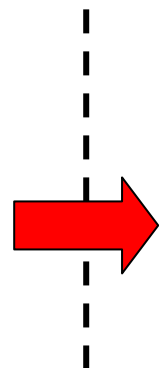
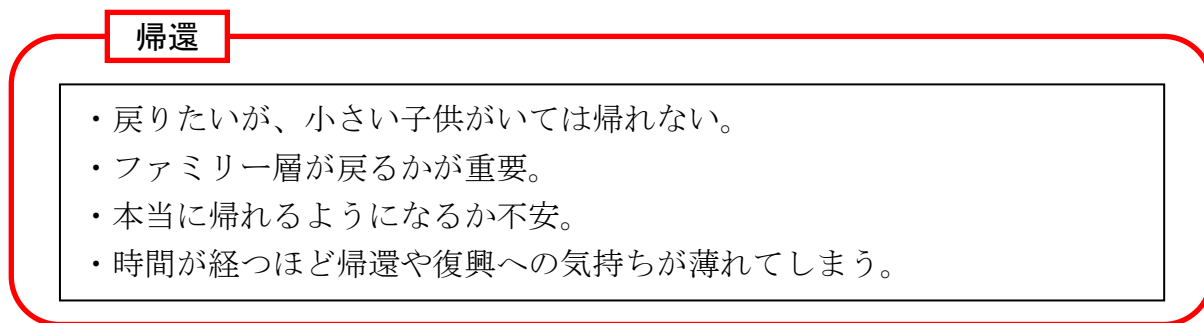
部会討議のまとめ



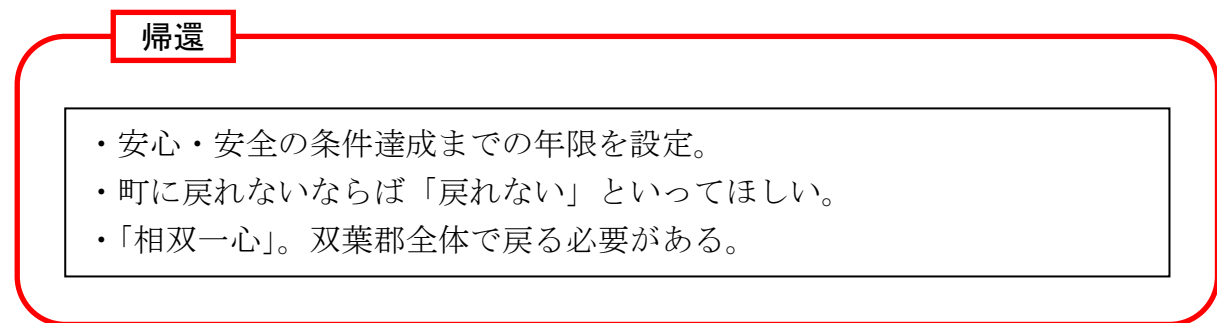
\*上記の分野に割り振れない「総論」と「帰還」を以下に整理



【不安・課題】



【必要なこと等】



【不安・課題】

避難生活

- ・ 家族がバラバラに生活している。
- ・ 避難先での生活で必死。先のことを考える余裕がない。
- ・ 良くも悪くも、働かなくてもお金がもらえてしまう環境。
- ・ 働ければなんでもいいという訳ではなく、県内での就労は困難。人によっては福島県にこだわりもないのでは。
- ・ 消防団も全国に散ってしまい、役割が果たせていない。
- ・ 汚染がひどい津島地区に避難していた。
- ・ おとなし過ぎる、理不尽を許容してはならない。

地域コミュニティの再生

- ・ 若い人が戻らないといけませんが、年代で温度差がある。
- ・ 地域コミュニティの再生が必要。
- ・ 住む人がいなければ、地域の再生はできない。
- ・ 町に戻るまでの期間の避難している町民の気持ちの共有。

伝統文化の維持

- ・ 浪江町の文化、歴史、民俗、習慣の維持が課題である（伝統文化の今後が心配）。

【必要なこと等】

避難生活

- ・ 避難先での住民サービスの充実が求められる。
- ・ 生活の基本は仕事。無ければ作るしかない。
- ・ 仮設住宅での生活には限界がある。もう一段階上のコミュニティ再建の場を作るべき（仮設住宅の恒常的住宅への建替え）。
- ・ 高齢者が集まって住む。
- ・ 消防団が霧散しないよう、出初め式を実施する予定。

地域コミュニティの再生

- ・ コミュニティ（PTA、行政区、学区等）の維持が必要である。
- ・ （特に高齢者の）避難生活の孤独を解消する方策が必要である。
- ・ 現在、避難している人のケアが必要。
- ・ 帰還できる環境を整えつつ、住民の不安を取り除くことも同時に行う。

【不安・課題】

放射線

- ・基準がどんどん上がることが不安。
- ・子供に影響があるのではと不安。現状では戻って子育てする気にはなれない。
- ・山からの放射性物質の流出が心配である。
- ・水源（ダム、地下水）の放射能汚染が心配である。

除染

- ・現実的にどこまで可能か（除染の先が見えない）。
- ・限定的な範囲の除染では生きていけない。
- ・積算線量が 200mSv を超える場所の除染は可能なのか不安。
- ・山林の除染が可能なのか不安（除染困難な山はどうするのですか。森林は、除染しても放射線量が下がらないのではないか）。
- ・除染した放射性物質を含む土の置き場が問題である。
- ・除染に使った水は海に流れる。海は再生できるのですか。

情報

- ・除染によって、帰還できるようになるのかという情報がほしい。事故に関する詳細な情報がほしい。
- ・放射線に関する情報に一貫性がない。放射線の安全基準が、学者ごとにバラバラでわかりづらい。
- ・東電や政府の工程表が見えてこない。
- ・安全だと言われても、それだけでは不安は解消されない。
- ・汚染マップの精密版がほしい。

災害の反省点

- ・ヨウ素剤は届いたが、飲ませる指示も基準もなかった。
- ・避難の最終判断は個人任せ。

インフラ等復旧

- ・インフラの被害調査ができていない。
- ・あらゆる災害に対応できるインフラの整備が必要。
- ・2次被害が進んでいる。特に家は2～3年でダメになる。

【必要なこと等】

除染

- ・除染に関して、納得できる統一した基準が必要である。

情報

- ・当事者同士が納得できる、断定ではなくある程度幅をもった情報（リスクコミュニケーション）が必要。
- ・情報の質もそうだが、報道等の情報が減っているため、ある程度の情報量も必要。

インフラ等復旧

- ・現行のビジョンには沿岸部がどうなるかという視点がない。
- ・（沿岸部で）「命を守る」ためには、高台・二重防波堤・避難道の整備が必要。

分野：元気なまちづくり

【不安・課題】

産業復興・雇用創出

- ・若い人が戻らないといけませんが、年代で温度差がある。
- ・町に戻った後の雇用の場の確保が重要である。
- ・町に戻って商売が成り立つか心配である。
- ・風評被害が心配である。
- ・企業を誘致し、雇用・町税を確保することが必要。

農業再生

- ・農地の除染をどうするか。
- ・農業施設の復旧が必要。
- ・年が経つと、農地は使い物にならなくなる。

【必要なこと等】

産業復興

- ・地域の企業が帰らないと、住民も帰れない。  
→地域企業の支援
- ・再生エネルギー基地の誘致を図る。
- ・学校、病院、商店がないと戻れない。

雇用創出

- ・帰るまでの就労支援。
- ・雇用の場の確保（特に若い世代）が必要。

農地再生

- ・農地の一次的な手入れのための立ち入り。

第1部会：絆と人づくり

【不安・課題】

帰還

- ・戻りたいが、小さい子供がいては帰れない。
- ・ファミリー層が戻るかが重要。

放射線

- ・基準がどんどん上がることが不安。
- ・山からの放射性物質の流出が心配である。
- ・水源（ダム、地下水）の放射能汚染が心配である。

除染

- ・除染の先が見えない。
- ・限定的な範囲の除染では生きていけない。
- ・除染した放射性物質を含む土の置き場が問題である。
- ・森林は、除染しても放射線量が下がらないのではないか。

産業復興

- ・町に戻った後の雇用の場の確保が重要である。
- ・町に戻って商売が成り立つか心配である。
- ・風評被害が心配である。

理不尽な避難生活

- ・家族がバラバラに生活している。
- ・汚染がひどい津島地区に避難していた。
- ・おとなし過ぎる、理不尽を許容してはならない。

コミュニティ・伝統文化

- ・町に戻るまでの期間の避難している町民の気持ちの共有。
- ・浪江町の文化、歴史、民俗、習慣の維持が課題である。

【必要なこと等】

総論

復興ビジョン・計画策定

- ・平時の計画ではなく、戦時の計画づくりが必要である。
- ・会議で紙をまとめるだけでなく、いかに実践するかが重要である。
- ・町民独自の努力をまとめて計画に盛り込む。
- ・まとめた意見を政府、東電に対して発信する必要がある。
- ・戻すものと戻さないものを整理する必要がある。
- ・戻ることによって生じるデメリットも明示する必要がある。

- ・地域の復興の基本として「一人一人の復興」が必要である。
- ・住民として何が出来るかを考えるべき（除染の講習会等）。
- ・「浪江っ子」が復興の中心にあるべきである。

帰還

- ・安心・安全の条件達成までの年限を設定。
- ・町に戻れないならば「戻れない」といってほしい。
- ・「相双一心」。双葉郡全体で戻る必要がある。

産業復興

- ・雇用の場の確保（特に若い世代）が必要。
- ・再生エネルギー基地の誘致を図る。

避難生活

- ・避難先での住民サービスの充実が求められる。
- ・仮設住宅の恒常的住宅への建替え。
- ・高齢者が集まって住む。

コミュニティ・伝統文化

- ・コミュニティ（PTA、行政区、学区等）の維持が必要である。
- ・（特に高齢者の）避難生活の孤独を解消する方策が必要である。

第2部会：安全・安全なまちづくり

【不安・課題】

帰還

- ・本当に帰れるようになるか不安。
- ・時間が経つほど帰還や復興への気持ちが薄れてしまう。

放射線

- ・子供に影響があるのではと不安。現状では戻って子育てする気にはなれない。

除染

- ・山林の除染が可能なのか不安。
- ・積算線量が 200mSv を超える場所の除染は可能なのか不安。

災害の反省点

- ・ヨウ素剤は届いたが、飲ませる指示も基準もなかった。
- ・避難の最終判断は個人任せ。
- ・避難が混乱したことの振り返りをしていない。

避難生活

- ・避難先での生活で必死。先のことを考える余裕がない。
- ・良くも悪くも、働かなくてもお金がもらえてしまう環境。
- ・働ければなんでもいいという訳ではなく、県内での就労は困難。人によっては福島県にこだわりもないのでは。
- ・消防団も全国に散ってしまい、役割が果たせていない。

情報

- ・除染によって、帰還できるようになるのかという情報がほしい。
- ・放射線に関する情報に一貫性がない。
- ・東電や政府の工程表が見えてこない。
- ・安全だと言われても、それだけでは不安は解消されない。

【必要なこと等】

総論

- ・不安や課題をまずみんなで共有すること。
- ・どうすればいいのか、何をすればいいのか、走りながらでも考えていくことが大事。
- ・なみえは、みんなの心のよりどころである。
- ・遠い将来でも戻れる状態は作るべき。
- ・浪江の海・町・山の方々の意識の違いを認識し、共有することが大事。
- ・首長単独で動くより、双葉郡等で目標を一つに力を合わせるべき。
- ・浜通り全体の復興、福島県の東西軸での連携等、もっと大きな視点も必要。

情報

- ・当事者同士が納得できる、断定ではなくある程度幅をもった情報（リスクコミュニケーション）が必要。
- ・情報の質もそうだが、報道等の情報が減っているため、ある程度の情報量も必要。

除染

- ・除染に関して、納得できる統一した基準が必要である。

避難生活

- ・生活の基本は仕事。無ければ作るしかない。
- ・仮設住宅での生活には限界がある。もう一段階上のコミュニティ再建の場を作るべき。
- ・消防団が霧散しないよう、出初め式を実施する予定。

第3部会：元気なまちづくり

【不安・課題】

除染

- ・除染困難な山はどうするのですか。
- ・現実的にどこまで可能か。
- ・除染に使った水は海に流れる。海は再生できるのですか。

情報

- ・放射線の安全基準が、学者ごとにバラバラでわかりづらい。
- ・汚染マップの精密版がほしい。

- ・事故に関する詳細な情報がほしい。

農業再生

- ・農地の除染をどうするか。

インフラ等復旧

- ・インフラの被害調査ができていない。
- ・あらゆる災害に対応できるインフラの整備が必要。
- ・2次被害が進んでいる。特に家は2～3年でダメになる。

- ・農業施設の復旧が必要。
- ・年が経つと、農地は使い物にならなくなる。

産業復興・雇用創出

- ・企業を誘致し、雇用・町税を確保することが必要。

地域コミュニティの再生

- ・若い人が戻らないといけませんが、年代で温度差がある。

- ・地域コミュニティの再生が必要。
- ・伝統文化の今後が心配。
- ・住む人がいなければ、地域の再生はできない。

【必要なこと等】

総論

- ・帰れない気がしている人も、前向きにさせるビジョン。
- ・残すものは残しつつ、新しい町として再生すべき。
- ・現状復帰が第一。
- ・地域別のビジョン。
- ・できることからやるべき。
- ・年次を切ったビジョンの策定。

農地再生

- ・農地の一次的な手入れのための立ち入り。

インフラ等復旧

- ・現行のビジョンには沿岸部がどうなるかという視点がない。
- ・(沿岸部で)「命を守る」ためには、高台・二重防波堤・避難道の整備が必要。

産業復興・雇用創出

- ・帰るまでの就労支援。
- ・学校、病院、商店がないと戻れない。
- ・地域の企業が帰らないと、住民も帰れない。  
→地域企業の支援

地域コミュニティの再生

- ・現在、避難している人のケアが必要。
- ・帰還できる環境を整えつつ、住民の不安を取り除くことも同時に行う。